

2021年7月1日
71号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人 飯嶋和秀
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

ごあいさつ — 地域を護る病院として —

院長 吉井 慎一



昨年、茨城県では5月14日、全国的には5月25日、緊急事態宣言が解除されました。この時は一部の地域を除き、新規感染者数ゼロが続いた時期もありましたが、戦後初めて全国高等学校野球選手権大会のない夏を過ごしました。今年も、未だ東京では新規感染者数の下げ止まり傾向にあり、緊急事態宣言解除によるリバウンドや感染力の高い変異ウイルスの影響が懸念される中、東京オリンピック・パラリンピックの開催が目前に迫っています。開催期間中や閉会後の1から2週間の感染者数の急増が懸念され、これは東京だけの問題ではありません。医療だけを考えれば、当然中止や無観客開催が望ましいのですが、医療者としては最悪な状況も考慮して準備せざるを得ないと考えています。

このような状況下において、ワクチン接種は感染拡大を抑える切り札として、国も自治体も接種拡大に努力しています。ひたちなか市では、5月22日より集団接種が開始され、市内の個別接種の協力医療機関も増え、順調にいけば7月末までには、65歳以上の優先接種の75%が終了する見込みです。当院も6月9日から当院に予約診療で継続

的に通院されている65歳以上の方を対象にワクチン接種を開始しています。午後の外来が一部残っている中、できるだけ多くの患者さんに接種するため、やや混雑する日もあり、通常の外來患者さんにもご迷惑をおかけしています。

今後は政府の100万回/日接種の号令の下、第三グループである「基礎疾患のある方」や職域接種・学校接種も7月を目途に予定されています。また、65歳未満の通常接種も並行して行う可能性もあります。ワクチン接種開始当初の問題は、ワクチンの供給量不足でしたが、接種が進む中、現在はワクチンの打ち手（医師、看護師、薬剤師含め）不足が主な問題となっています。今後はワクチンを希望しない人への差別や、職場でのワクチンハラスメントはあってはならないことですが、副反応の情報が散乱する中、いかに国民全体の接種率を上げるかが課題となりそうです。

当院はひたちなか市の基幹病院として、「地域を護る病院」を理念のもと職員一同頑張っています。しかし、市内15万人、二次医療圏内33万人の人口を抱える中、通常診療や救急診療は約40%以上を水戸医療圏に依存しています。茨城県での一部地域における新型コロナウイルス感染者の急増は、県央・県北だけの問題にとどまらず、茨城県全体の医療に影響します。まだまだ制限された生活が続きますが、地域の皆様のご理解、ご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
					1	2	③		①	2	3	4	5	6	⑦					1	2	3	④
7	④	5	6	7	8	9	⑩	8	⑧	9	10	11	12	⑬	⑭	9	⑤	6	7	8	9	10	⑪
月	⑪	12	13	14	15	16	⑰	月	⑮	16	17	18	19	20	⑲	月	⑫	13	14	15	16	17	⑱
	⑱	20	21	⑳	㉒	㉓	㉔		㉒	23	24	25	26	27	㉘		⑳	㉑	21	22	23	24	㉕
	㉖	27	28	29	30	㉓			㉖	27	28	29	30				㉖	27	28	29	30		

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



外科



消化器外科 久倉 勝治

外科は、一般外科・消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科を対象とし、消化器外科では消化管から実質臓器まで多岐の治療にあたります。中でも、食道疾患とりわけ食道がんは、患者数は他の消化管がんほど多くはありませんが、隣がんとならび高度進行状態で発見されることが多く、加えて難治性のがんとして知られており、治療に難渋する疾患の一つです。

食道がん治療ガイドラインにおける標準治療は、Stage 0：上部内視鏡切除、Stage I：外科切除or化学放射線療法、Stage II/III：術前化学療法→外科切除、Stage IV：（化学）放射線療法、と概ね定義されており、未だ外科切除が根治治療の大きな比重を占めます。以前は合併症の多い困難な治療、とされてきた食道がん外科治療ですが、近年は鏡視下手術を含めさまざまなデバイスが開発され、そのリスクは徐々に軽減されており、根治治療の中心と捉えています。また、近年は、希少疾患に対する治療における施設の集約化が推進されており、地域がん診療連携拠点病院としての診療ならびに高度

先進医療施設と連携した治療にも取り組んでまいります。

食道がん治療は、外科切除はもちろんですが、放射線療法や薬物療法がキーとなることも多く、放射線治療専門医や消化器内科の専門医とも緊密に連携した診療を実施しています。また、耳鼻咽喉科や歯科口腔外科との合同治療が必要な場面もあり、同科の協力を得ながら治療を進めることが大切です。

がん以外の食道疾患においては、食道異物や食道破裂など、専門性が必要であることに加え緊急性が高い疾患が多いという特徴があります。24時間緊急対応できる体制を整えながら、少しでも地域の皆様が安心して最適な診療を受けられるよう、これからも日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



外科カンファレンスの様子



外科医師

部署紹介 地域医療連携推進センター

当地域医療連携推進センターでは、辻井センター長の
下、看護師3名、事務員4名のベテラン7名が勤務
しております。私たちの仕事は、かかりつけ医であ
る開業医の先生や福祉関連の方と連携を図り、良質
な医療を提供できるように橋渡しすることです。そ
れが地域医療に貢献していくことと考えております。

また、患者さん一人ひとりに最適な医療サー
ビスができるよう、「顔の見える連携」であることを心
がけています。そしてスタッフ全員がやりがいをも
ちながら働くことで地域医療を支える皆様から信頼
される部門をめざしていきたいと思っております。
今後ともご指導を賜りながら、成長できますよう一同
頑張ります。よろしくお願いいたします。



地域の先生紹介

小松整形外科医院

当院は1989年に市毛十字字に開院しました。当時、現ひたちなか総合病院には整形外科がなく、翌年中島宏先生が赴任し、整形外科が開設されました。勝田の患者は勝田で診るよう頑張ろうと語り合ったことを思い出します。

1999年に現在の津田に新築移転し、2000年に中島宏院長が赴任してくれました。脊椎外科を専門としていますがオールrounder医師で爆発的に患者さんが増えました。

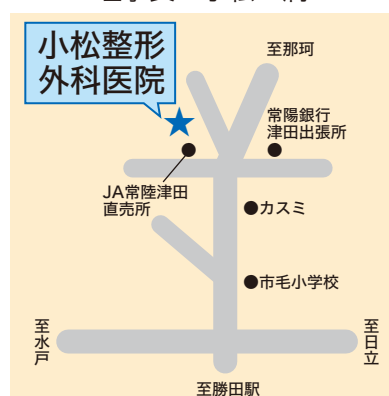
2004年に星忠行副院長（膝関節外科）、2008年に小松史医師（足外科）、2016年に増谷守彦医師（肩関節外科）と専門の異なる医師が集まりました。

また、麻酔科指導医の山下正夫医師が2008年から常勤しています。全身麻酔に神経ブロックを駆使して患者さんの負担を和らげています。麻酔科医が常勤することで安心安全な医療を提供しています。

これからも保存療法はもちろんですが、手術による治療を積極的に行い地域に貢献していきます。



理事長 小松 満



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進センターへ

8:15~16:30 (月曜日~金曜日)

TEL 029-354-5202 (直通)

FAX 029-354-5220 (直通)

マンモグラフィ検診施設・画像認定を更新しました

マンモグラフィ検診施設・画像認定とは《特定非営利活動法人日本乳がん検診精度管理中央機構》がマンモグラフィ検診の精度維持・向上を目的として、使用している撮影装置や日常の管理状況、実際に



撮影したマンモグラフィの写真を提出し、厳しい審査を受け、質の高いマンモグラフィ撮影が提供できていると保証された施設にのみ与えられる認定です。

認定を維持するためには3年ごとに更新試験を受ける必要がありますが、当施設は今回で3回目の更新となります。今後も質の高いマンモグラフィが提供できるよう継続して努力してまいります。

現在乳がんの罹患数は増加傾向にあり、最新の統計データによると9人に1人が乳がん罹患すると言われています。乳がんは早期に発見し、適切な治療を受ければほぼ完治するがんでもあります。

当施設では検診施設・画像認定に加え、同機構より認定を受けた放射線技師による撮影を実施しております。担当する技師はすべて女性ですので、安心して検査をお受けいただけます。

食中毒の予防と対策について

梅雨が近づくと気になり始めるのは食の安全性です。今年は新型コロナウイルスの影響で出前やテイクアウトを取り入れる飲食店の需要が増えています。食中毒というと、飲食店での食事が原因と思われがちですが、毎日食べている家庭の食事でも発生しています。食中毒の予防・対策について正しく理解しましょう。

〈食中毒予防3原則〉

1. 細菌を食べ物に「つけない」
2. 食べ物に付着した細菌を「増やさない」
3. 食べ物や調理器具に付着した細菌を「やっつける」

〈家庭での食中毒を防ぐポイント〉

1. 買い物中は、消費期限を確認し肉や魚などは最後に買う。
2. 食品は持ち帰ったらすぐに保管する。
冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下に保ち詰めすぎに注意する。

3. 料理前後は手洗いをする。肉や魚の解凍は室温ではなく冷蔵庫で行う。

肉や魚に使用した包丁やまな板は熱湯消毒し、常に清潔な状態を保つ。

4. 加熱は十分にし、作った料理は室内に放置せずすぐ食べる。

5. 残った食品は、勿体ない意識を捨てすぐに捨てる。

予防対策をしっかり行い、今年の夏は元気に過ごしましょう！

◆◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆◆

診療科	氏名	異動日
循環器内科	藤原 崇	採用(2021. 7. 1)
消化器外科	久倉 勝治	採用(2021. 5. 1)
臨床研修医	土屋 亮介	退職(2021. 4. 30)
	武本周平	採用(2021. 6. 1)
	藤枝 弥結	採用(2021. 7. 1)